竹 富 町 海 洋 教 育 基 本 計 画

節祭（西表島祖納）

豊年祭（黒島）

体験ダイビング（船浦中）

水泳教室（波照間小中）

もずく採り（小浜小中）

令和５年６月

竹富町教育委員会

目次

１．はじめに **1**
(1)　海洋教育とは 1
(2)　計画策定の趣旨 2
(3)　竹富町の島々の概要 3

２．本町の海洋教育 **9**
(1)　基本目標 9
(2)　基本方針 9
(3)　重点項目 9

３．事業内容 **11**
(1)　学習に関すること 11
(2)　学校と地域の取り組みに関すること 12
(3)　推進体制に関すること 13

４．推進体制 **16**

５．計画期間 **17**

１．はじめに

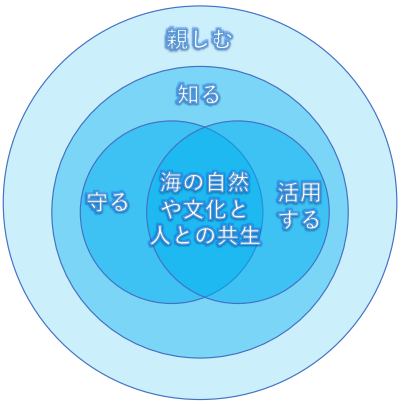
（1） 海洋教育とは

海の自然や文化と人との共生に向けた人材育成

私たちは、海洋から多大な恩恵を受けるとともに、海洋環境に少なからぬ影響を与えており、海洋と人類の共生は重要課題である。海洋教育は、海洋と人間の関係について理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋との関わりを可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指している。

海洋政策を取り巻く我が国の取り組みにおいては、平成 19 年 4 月に「海洋基本法」が制定され、平成 20 年 3 月に海洋施策についての基本方針等を定めた「海洋基本計画」が策定されている。「海洋基本法」では『学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進（第 28 条)』、「海洋基本計画」では、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策の一つに『海洋に関する国民の理解の増進と人材育成（第 2 部・12)』が謳われている。

このような背景から、上記の目的を達成するために、
本町の海洋教育では、**海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する** の 4 つの視点を基本とした学習を通して、**海の自然や文化と人との共生**に向けた人材育成を目指す。



竹富町における
海洋教育の概念図

① 海に親しむ
身近な海の豊かな自然や文化、地域社会の中での様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感性や海に対する関心等を培い、海の自然や文化に親しみ、進んで関わろうとする幼児・児童・生徒を育成する。

② 海を知る
海の自然や文化、資源、人との深い関わり等について関心を持ち、理解を深めるために進んで調べようとする幼児・児童・生徒を育成する。

③ 海を守る
海の環境や文化について調べる活動や保全活動などの体験、伝統行事などへの参加を通して、その保全に主体的に関わろうとする幼児・児童・生徒を育成する。

④ 海を活用する
身近な海と暮らし(衣食住、産業、交通、伝統文化など)の関わりや、海を通した世界の人々との結びつきについて学ぶことを通して、それらを持続的に活用しようとする幼児・児童・生徒を育成する。

（笹川平和財団ホームページ「海洋教育パイオニアスクールプログラム」、東京大学海洋教育センターホームページを基に作成）

（2） 計画策定の趣旨

竹富町は、日本最南端の八重山諸島に属し、南北約４０㎞、東西約４２㎞、約１７００k ㎡の広大な海洋に１６の島々（有人島９つ、無人島７つ）※1 で構成される島しょ型海洋自治体である。また、本町は、我が国の南西端の領海（排他的経済水域）の根拠となる国境離島地域でもある。古くから、島民は暮らしや様々な営みの中で海洋と密接に関わり、多大な恩恵を受けながら、海洋民族として受け継いだ豊かな知識や技術を活用して生活してきた。

本町では、我が国最大のサンゴ礁海域である石西礁湖をはじめとする恵まれた海洋環境および大自然と、それらを背景に育まれた個性豊かな伝統文化を未来の子どもたちに継承していくために、平成 23 年 3 月に、わが国で初めて「竹富町海洋基本計画」を策定し、平成 30 年 6 月には「第 2 次　竹富町海洋基本計画～美ら海とともに生きる町～」を策定した。この計画では、「海洋環境の保全」「離島苦の克服」「安全・安心な地域社会の形成」を実現していくための様々な活動計画を示しており、その１つに「島々の教育環境の充実」、「海洋教育の充実」を掲げている。また、本町の学校教育の努力目標の１つとして、「地域の自然・歴史・文化の重視」を掲げており、これらを積極的に教材化することが求められている。

このような背景から、令和元年（平成 31 年）度より、本町は「海洋教育パイオニアスクールプログラム※2」の地域展開部門に採択され、初年度に策定した「竹富町海洋教育基本計画」を基に、3 カ年計画で海洋教育の推進体制構築に取り組んできた。これまでにも、本町の各学校においては、島の周囲を取り巻く海や、自然環境、伝統行事等を活用した多種多様な体験学習が実施されているが、単発的な体験に留まっていることや、他の地域、他の島への関心が希薄であること等の課題がある。そこで、この３ヵ年では、既に取り組まれている海に関わる教育プログラムや、新たな教育プログラムを作成・整理し、海洋教育副読本の作成やそれに基づいた系統的・体系的な学びの展開、海洋教育サミットの開催等を実施した。今後は、本計画を基にこれらの取り組みを継続するために、より地域との連携・協働を図る。関連する組織・団体等の協力・支援を得て、町全体の一体感を創出するような海洋教育の構築を目指す。

また、海で囲まれた島々を有する本町がこのような取り組みを推進することは、本町の島々が海で繋がっていることへの理解だけでなく、世界全体が海で繋がっていることへの理解に繋がり、身近な地域のみならず国際的な課題への関心や理解力を高め、新学習指導要領が目指す持続可能な地域・社会づくりに貢献できる人材の育成に繋がることが期待される。

※1　本町に係る海洋の面積及び本町の島数は、第 3 期海洋基本計画（国）（平成 30 年 5 月）と連動して策定された「第 2 次竹富町海洋基本計画」（平成 30 年 6 月）から引用

※2「海洋教育パイオニアスクールプログラム」
主催：日本財団、笹川平和財団海洋政策研究所
後援：文部科学省
概要：子どもたちが海にもっと親しみ、理解を深め、自分たちの力で海を守っていくような新しい学びを日本中の学校に広げていくため、新しい海の学びに取り組んで行こうとする学校を支援する。

（3） 竹富町の島々の概要

図１．竹富町の島々と学校の位置

① 各島の概要

※人口は令和 5 年 2 月末現在の数。

【竹富島】

人　　口：328 人、面　積：5.42 ㎢、海岸線延長：9.15 ㎞、最高標高：33.1m
主な産業：観光業
主な祭事：種子取祭（昭和 52 年 国の重要無形民俗文化財に指定）
備　　考：伝統的な集落景観の保全を進めており、昭和 62 年に「伝統的建造物群保存地区」の選定を受けている。環境省のビジターセンター「竹富島ゆがふ館」が設置されている。

種子取祭

【黒　島】

人　　口：224 人、面　積：10.02 ㎢、海岸線延長：12.62 ㎞、最高標高：15.1m
主な産業：畜産業、観光業
主な祭事：豊年祭、牛まつり
備　　考：環境省のビジターセンターが設置されている。

豊年祭

【小浜島】【加屋真島】

人　　口：761 人（小浜島）1 人（加屋真島）、面　積：7.84 ㎢（小浜島）0.39 ㎢（加屋真島）
海岸線延長：16.57 ㎞、最高標高：99.4m
主な産業：農業（さとうきび等）、畜産業、観光業
主な祭事：結願祭(平成 19 年 国の重要無形民俗文化財に指定)、細崎ハーリー
備　　考：加屋真島は、現在主に観光業にのみ利用されている。

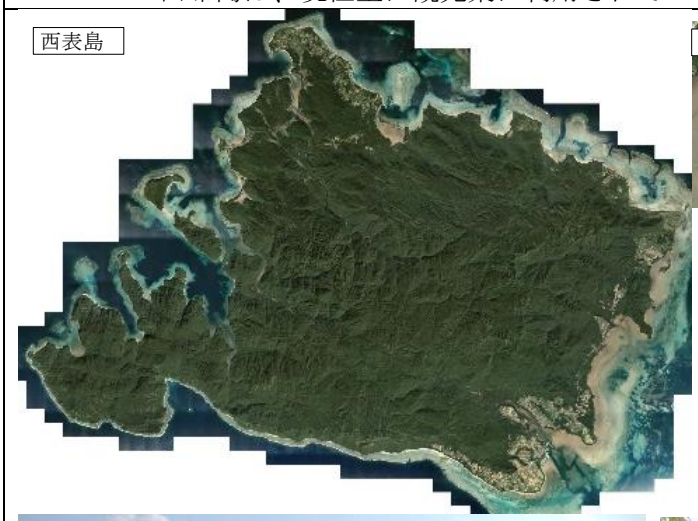
【波照間島】

人　　口：466 人、面　積：12.73 ㎢、海岸線延長：14.8 ㎞、最高標高：59.5m
主な産業：農業（さとうきび等）、観光業
主な祭事：豊年祭（プーリン）、シチ祭（シンフィニ）、
　　ムシャーマ（平成 5 年 選択無形民俗文化財に指定）
備　　考：日本最南端に位置する有人島である。

撮影：石垣佳彦氏

【西表島】【由布島】

人　口：2431 人（西表島）、10 人（由布島）、面　積：289.61 ㎢（西表島）、0.15 ㎢（由布島）
海岸線延長：129.99 ㎞、最高標高：469.7m
主な産業：農業（さとうきび、パイン、水稲、マンゴー等）、観光業
主な祭事：祖納・干立集落の節祭（平成 3 年 重要無形民俗文化財に指定）、船浮の節祭、船浮音祭り、白浜集落の海神祭(ハーリー)、各集落の豊年祭等
備　　考：野生生物保護センターが設置されている。
特定天然記念物「イリオモテヤマネコ」が生息する。
県内では本島に次いで２番目に大きな島で、県内最長の川「浦内川」、天然保護区域に指定された「仲間川」、県内最大の落差を誇る「ピナイサーラの滝」などを有する。
由布島は、現在主に観光業に利用されている。


西表島

由布島

節祭（祖納）

世願い（干立）

【鳩間島】

人　　口：63 人、面　積：0.96 ㎢、海岸線延長：3.86 ㎞、最高標高：33.8m

主な産業：観光業

主な祭事：豊年祭、鳩間島音楽祭、ハトマの日

備　　考：海岸漂着物の１つである発泡スチロールを燃料化する油化プラントを有する。

豊年祭

【新城島（上地島・下地島）**】**

人　　口：9 人（上地島）2 人（下地島）、面　積：3.34 ㎢、海岸線延長：11.05 ㎞、

最高標高：20.4m

主な産業：観光業（上地島）、畜産業（下地島）

主な祭事：　豊年祭、節祭

節祭（上地島）

② 学校の概要

竹富町には、幼稚園が３園、小学校が４校、中学校が２校、小中併置校が７校設置されている。
西表島を除く有人島（新城島を除く）の学校は全て小中併置の１校のみである。

表 1. 竹富町の園児・児童・生徒数（令和５年２月現在）

島名	竹富島	黒島	小浜島	波照間島	西表島	鳩間島	合計
幼稚園 幼児数	－	－	－	はてるま:14	おおはら:17 うえはら:20 （小計:37）	－	51
小学校 児童数	竹富:27	黒島:16	小浜:37	波照間:34	大原小:57 古見小:7 上原小:80 西表小:17 白浜小:11 船浮小:3 （小計:175）	鳩間:4	293
中学校 生徒数	竹富:7	黒島:6	小浜:22	波照間:19	大原中:33 船浦中:49 西表中:18 船浮中:1 （小計:101）	鳩間:7	162
合計	34	22	59	67	313	11	506

２．本町の海洋教育

目指す子ども像

我が島（ばがすま）、我が町（ばが）と海ぬ美（かい）しゃに誇りを持ち、未来に羽ばたくぱいぬ島っ子

（1） 基本目標

海洋教育を通して、我が島、我が町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海（自然）と人が共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる子どもたちを育成する。

（2） 基本方針

① 地域と学校の双方が主体となって連携・協力し、海洋教育を推進する。
② 島々の特色ある自然や歴史文化、暮らし等を最大限に活用し、海洋教育の４つの視点と海と人との共生を軸に海洋教育を実施する。
③ 島々を結び、竹富町全体の一体感を醸成する海洋教育を展開する。

（3） 重点項目

① 海洋教育を通して、自分の地域や島をはじめ竹富町の他の島々へも理解を広げ、それぞれの自然や歴史、伝統文化などの重要性に気づき、竹富町民としての誇りと郷土愛を育む。

ねらい
・身近な海、自分の地域や島を理解することを通して、我が島、我が町への誇りと愛着を持つ。
・先人たちの海との関わりや活用方法を知り、体験することで、その価値を再認識する。

② 海を取り巻く様々なひと・もの・ことについて可能性や課題などを発見できる力を育む。

ねらい
・身近な海と関わる竹富町の暮らしや風土、文化、祭祀、産業等を学び、その大切さを知る。
・自分の地域と周りの地域との共通点や違い、身近な海との関わりなどを自ら発見できる力を身につける。
・幼稚園から中学校まで一貫した系統的・体系的な海洋教育を通して、その気づきや体験を未来に活かす。

③ 島々の祭祀や文化と繋がる海への畏敬の念を持つとともに、海の脅威を知り安全安心な海との関わり方を育む。

ねらい
・地域に継承されてきた伝統文化（古謡、民話、祭事等）と海との関わりについて探究する。
・過去の事例や自然災害等から、海（水）の脅威を知り、防災・減災の知識や備え、対応の仕方等を身に付け、海との安全安心な関わり方を学ぶ。

④ 海（自然）と人が共生できる持続可能な社会となるように自ら考え行動できる力を育み、将来にわたって本町に貢献できる子どもたちを育成する。

ねらい
・海と人との関わりを理解した上で、持続的に良い関係を保つために考え、継続的に行動できる力を身に付ける。
・地域や島の伝統を受け継ぐ担い手となる自覚を育むとともに、持続可能な地域づくりに取り組む態度を身に付ける。
・身近な海を題材に学びを深めることで、将来本町に戻り活躍する人材や、島を離れていても本町に貢献しようとする意欲を育む。

刺し網体験（西表小中）

サンゴの産卵観察（船浮小）

浜下り（古見小）

マングローブ観察（鳩間小中）

ビーチクリーン（上原小）

海人祭（白浜小）

３．事業内容

海洋教育の基本目標の達成と、円滑・確実な推進に向けて、以下の事業に取り組む。

（1） 学習に関すること

① 各校・各地域に根ざした海洋教育カリキュラムの定着

事業開始後 3 ヵ年の中で、町内全校において、海洋教育に関する全体計画および年間指導計画等の作成を進めてきた。今後は、これらの計画が、本計画に示した「基本方針」及び「重点項目」に沿った形で、より各校・各地域の実態に合わせて定着するよう推進する必要がある。

よって、各校において引き続きカリキュラムに基づいた実践と定着を図るとともに、教育委員会では、それに必要な情報提供やアドバイス、実行状況の管理を行う。また、教育課程特例校への指定を希望する学校がある場合には、教育委員会と各校が協働して推進する。

② 海洋教育副読本の利活用

令和 2 年度に作成、翌年より活用を開始した副読本について、活用の推進を図るとともに、毎年アンケートを行い利用状況の把握を行いながら、副読本の中身や活用方法について更新・改善すべき点がないか、ある場合にはその検討を進める。

③ 出前授業の企画・実施

多種多様で充実した海洋教育を展開するにあたっては、教員のみならず、地域の人材や組織、専門家等と連携したプログラムの実施が有効である。そのため、積極的に学校外の講師を招いた出前授業や専門機関と連携したプログラムを企画・実施し、地域の特性を踏まえた学習や専門的な知識を得る機会を創出するとともに、あらゆる分野で活躍している方々と交流する機会をつくる。

また、協力・連携可能な個人、組織、団体等のリスト（竹富町海洋教育人材バンク（仮称））を作成し、各校で扱いたい分野の適任者を選択できるようにする。

④ 交流学習の推進および海洋教育サミットの定期開催

自分の地域のみならず他の地域や島にも目を向け、学びや理解を深めるために、他校や他島の学校と共に海洋教育を体験する機会や、学習したことを合同発表する等の交流学習の機会を創出する。また、オンラインツールも積極的に活用し、現地への訪問も念頭に、近隣市町村や県外、海外　の学校との連携・交流等も視野に展開していく。

また、令和３年度より実施している「竹富町海洋教育サミット」を引き続き開催し、交流や発表の機会創出を推進する。

上原小

古見小

船浦中

海洋教育サミットでの発表

(2) 学校と地域の取り組みに関すること

① 海洋教育月間の運用

海洋教育月間（毎年７～８月※）を１つの機会として、海とともに生きる島民として、身近な海との関わりや生活を見つめ直し、持続可能な地域づくりに向けて考え、積極的に行動する。

※令和３年度は「海洋教育週間」として７月１～７日に実施。各校の状況を鑑み、令和４年度より「海洋教育月間」として７～８月を制定。

② 地域連携事業の実施

地域全体で海洋教育に取り組み、また海で結ばれた島々の一体感を醸成することを目的に、海洋に関わる催しを実施する。実施にあたっては、令和３年度より実施している「海洋教育月間」や「海洋教育サミット」「海洋教育フォトコンテスト」「ビーチクリーン活動」などを基軸に、町内全体で海洋教育に関わる活動を推進する。

具体的には、上記の他、子どもたちの海洋教育の活動紹介のみならず、地域の方々が取り組む海に関わる活動や海に関わる製品の紹介・販売等を行う催し、地域が主催する祭事等に子どもたちや教職員が参加するなど、学校と地域が連携した取り組みを積極的に進める。

③ 地域主体の海洋教育活動の推進

地域組織・団体等（公民館、子ども会、青年会、婦人会、老人会、観光協会、観光事業者組織、商工会、NPO 等）が、海洋教育に関わる活動を主催したり、既に行われている活動や学力向上推進の取り組みを海洋教育に関連づけたりする等して、地域主体で海洋に関わる取り組みを推進することで、町民の海洋保全等への意識・関心を高める。

(3) 推進体制に関すること

① 教員研修の実施

海洋教育を充実させ円滑に推進するためには、教員が本町の特性や海洋教育の趣旨、実施の意義や内容等を十分に理解する必要がある。そこで、年度始めに海洋教育への理解を深めることを目的に教員研修を開催するとともに、年度後期には情報交換会等を開催し、海洋教育の推進に向けた検討を行う。また、各校の取り組みの把握や情報交換を行うことを目的とした「海洋教育担当者会」を継続する。

② 竹富町海洋教育推進委員会の継続開催

本町の海洋教育を円滑・確実に推進できるよう、町・学校・地域で組織するために令和元年度に設置した「竹富町海洋教育推進委員会」を継続する。（事務局は教育委員会が担う。）

推進委員会では、主に「地域連携事業の実施」や「第2次竹富町海洋基本計画（平成30年6月）」に示された施策項目のうち、海洋と教育に関わる分野の推進に必要な事項を検討することとし、地域一体で海洋教育に取り組める体制を整えることを目的とする。

③ 竹富町海洋教育担当者会の開催

町内各校の海洋教育担当者が集い、情報共有や課題解決を目的に協議できる場をつくり、各地域に合った形で町全体の海洋教育の推進を図る。また、海洋教育の取り組み内容やサミットの内容、実施方法について検討を進める。

④ 取り組みの発信の強化・拡充

各校で町内の海洋教育の取り組みを随時共有できるよう、また町内外で認知されるよう取り組みに関する発信を強化・拡充する。具体的には、海洋教育専用 HP を開設し積極的な運用を図るとともに、SNS 等を始めとした容易に扱えて広く周知を図れる方法についても検討する。

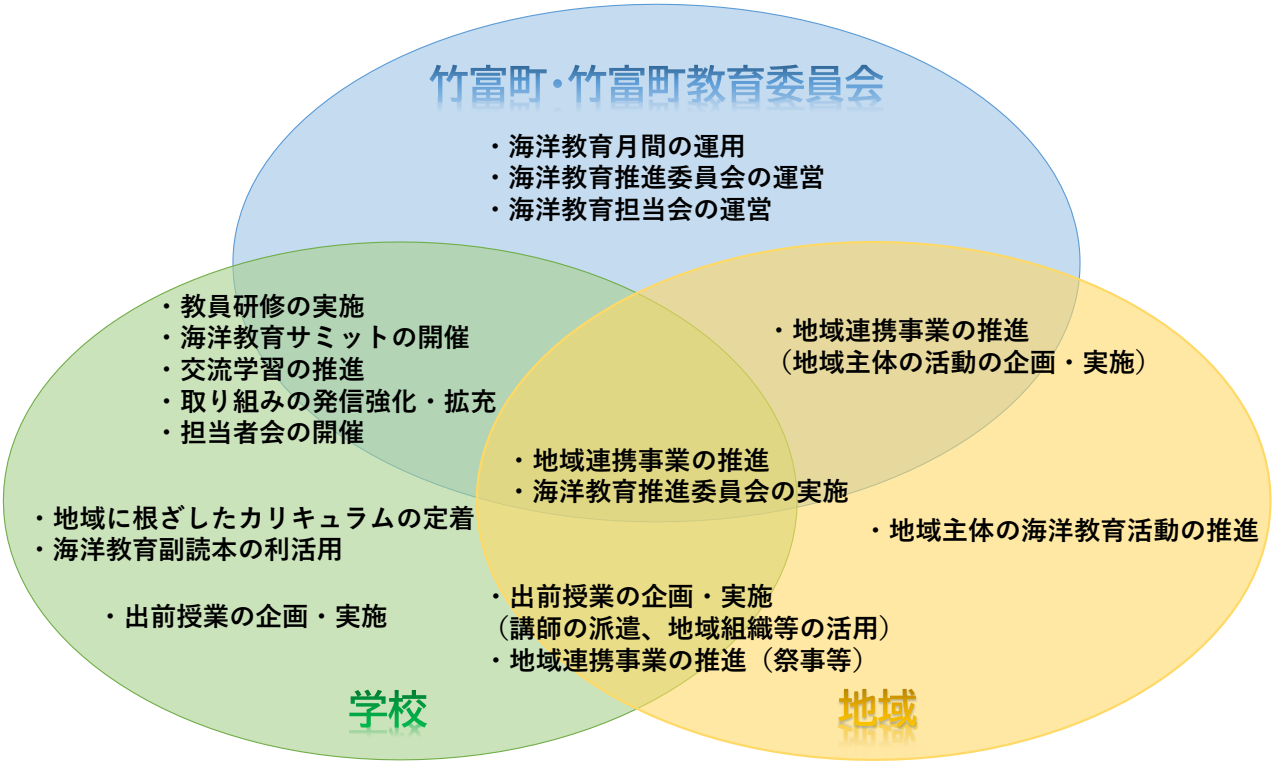
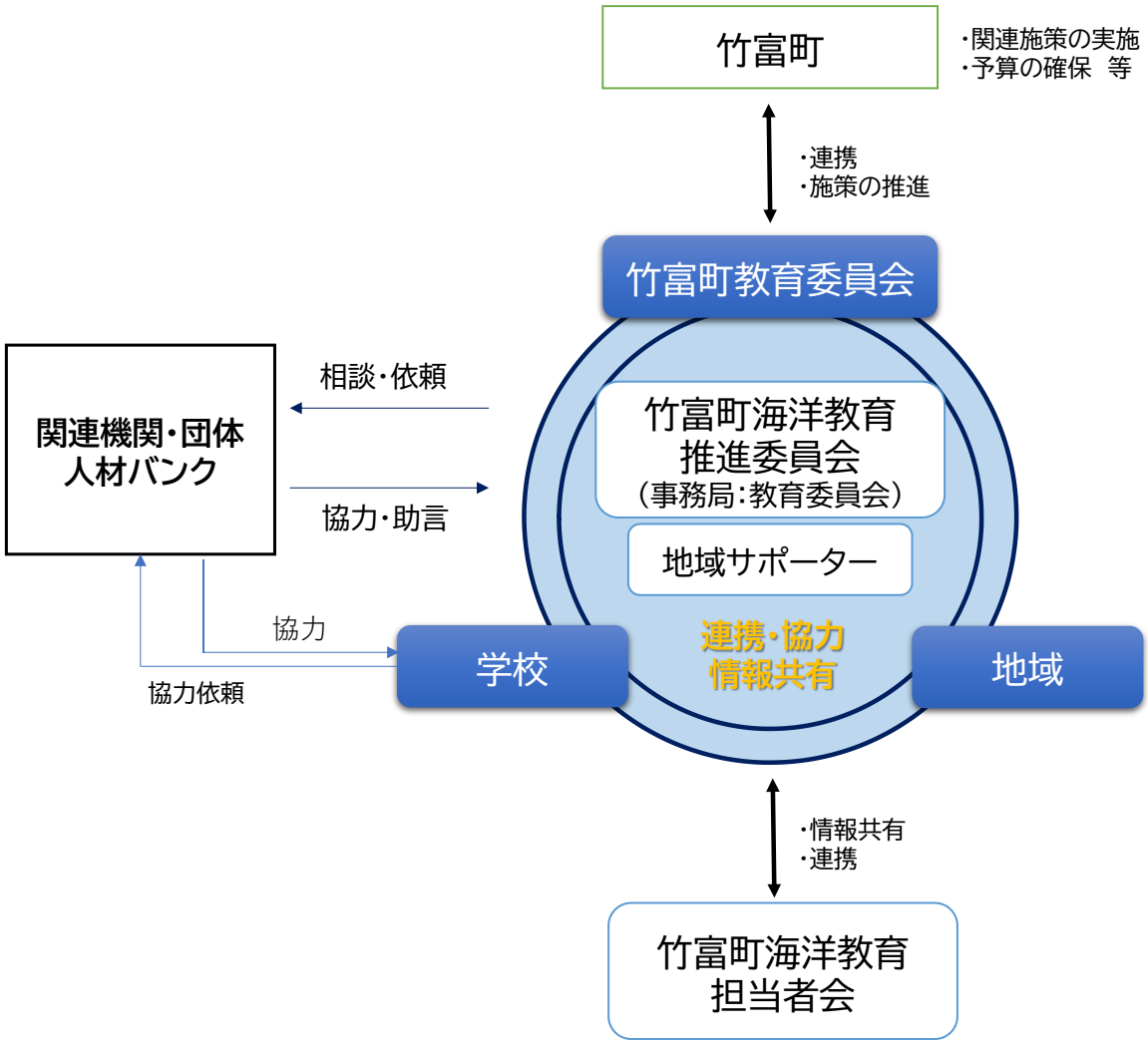

竹富町・竹富町教育委員会
・海洋教育月間の運用
・海洋教育推進委員会の運営
・海洋教育担当会の運営
・教員研修の実施
・海洋教育サミットの開催
・交流学習の推進
・取り組みの発信強化・拡充
・担当者会の開催
・地域連携事業の推進
（地域主体の活動の企画・実施）
・地域連携事業の推進
・海洋教育推進委員会の実施
・地域に根ざしたカリキュラムの定着
・海洋教育副読本の利活用
・地域主体の海洋教育活動の推進
・出前授業の企画・実施
・出前授業の企画・実施
（講師の派遣、地域組織等の活用）
・地域連携事業の推進（祭事等）
学校
地域

図２．事業内容

■事業スケジュール

		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
(1)学習に関すること						
	① 各校・各地域に根差した海洋教育カリキュラムの定着	・それぞれの学校で軸となる取り組みの精査 ・上記が継続できる形の全体計画・年間計画に更新 ・全教員の理解・把握を目指す	・前年度の計画を基に担当教員の引き継ぎがうまくいく状態 ・状況にあった形でカリキュラムをアレンジできる状態 ・教科横断的な学習基盤ができている	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ
	② 海洋教育副読本の活用	・各校の副読本活用状況を把握する(アンケートの実施) ・活用方法を町内で共有できるようにする ・活用における課題を整理する	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・改訂版の検討開始	・改定版の最終化
	③ 出前授業の企画・実施	・身近な地域人材による出前授業:1回以上 ・町外の講師による出前授業:1回以上 ・上記に必要なサポートを行う ・人材リストを作成する	・前年度と同様に、各校にあった形で展開する	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ
	④交流学習の推進および海洋教育サミットの定期開催	・町内他校との交流、町外校との交流をそれぞれ1回以上実施することを目標とする。(交流においてはオンラインも活用する) ・海洋教育サミットを開催する(対象:前年度、出場していない町内の学校)	・町内他校との交流、町外校との交流をそれぞれ1回以上実施することを目標とする。 ・海洋教育サミットを開催する(対象:町内全校) ・今後の海洋教育サミットの適切な開催形態を検討する	・町内他校との交流、町外校との交流をそれぞれ1回以上実施することを目標とする。 ・前年度に検討した適切な開催形態で、海洋教育サミットを開催する。	・前年度に同じ	・前年度に同じ
(2)学校と地域の取り組みに関すること						
	① 海洋教育月間の運用	・フォトコンテストなど、海に関わるイベントを開催するなどして、学校に限らず地域と共に海洋教育の取り組みの機運を高める	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ
	② 地域連携事業の実施	・地域連携をより図りやすくするために、「海洋教育地域人材バンク(仮称)」を作成する ・協力機関を募る ・地域と学校とが協力して海洋教育を進める	・地域と学校とが協力して海洋教育を進める	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ
	③ 地域主体の海洋教育活動の推進	・地域の海洋教育に対する理解を深める ・学力向上推進委員会との連携について検討する	・地域発の取り組みが、各地域において1回以上実施される	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ
(3)推進体制に関すること						
	① 教員研修の実施	・年度始めに全教職員を対象とした海洋教育に関する教員研修を実施する	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ
	② 竹富町海洋教育推進委員会の開催	・教育委員会が事務局となり、年2～3回程度、取り組みの推進について議論する場を設ける ・担当者会と連携した議論ができるようにする	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ
	③ 竹富町海洋教育担当者会の開催	・教育委員会が事務局となり、年2～3回程度、学校における取り組みの検討、情報共有等を行える場を設ける ・今後の開催形態についても議論する ・推進委員会と連携した議論ができるようにする	・前年度に議論した適性な形態で、年2～3回程度、学校における取り組みの検討、情報共有等を行える場を設ける ・推進委員会と連携した議論ができるようにする	・前年度に同じ	・前年度に同じ	
	④ 取り組みの発信強化・拡充	・Web サイトを活用した発信を強化する ・公式 SNS の運用を含め、学校から教員や子ども達が発信しやすい形態を探る	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ	・前年度に同じ

４．推進体制



※その他、推進にあたっては、必要に応じて、別途委員会（プロジェクトチーム等）を設ける等して、各取り組みが円滑に推進できるようにする。

５．計画期間

本計画は、令和５年４月１日から施行し、毎年検証（必要に応じて見直し）を行い、５年ごとに見直しを行うこととする。

シュノーケリング体験（黒島小中）

SUP 体験（小浜中）

水泳教室（波照間小中）

星砂学習（鳩間小中）

カヌー体験（西表中）

体験のまとめ（白浜小）

洋上星座観察（船浮小中）

巻き網体験（古見小）

カーナ採り（大原小）

竹富町海洋教育基本計画

・令和２年３月　策定

・令和５年６月　改訂

〇令和４年度 推進委員構成

	名前	所属
1	佐　事　安　弘　◎委員長	竹富町教育長
2	美　差　淳　司　〇副委員長	竹富町立小浜小中学校長
3	眞　謝　隆　一	竹富町公民館連絡協議会会長
4	池　村　久　美	竹富町婦人連合会会長
5	松　竹　祐　太	竹富町青年団協議会会長
6	西　表　晋　作	竹富町観光協会副会長
7	島　村　賢　正	竹富町教育委員
8	上　勢　頭　輝	竹富町教育委員
9	馬　上　晃	竹富町立波照間小中学校長
10	小　濵　啓　由	竹富町政策推進課長

※事務局：竹富町教育委員会教育課

〇検討経緯

第１回　令和５年　１月 24 日

第２回　令和５年　２月 20 日

竹 富 町 海 洋 教 育 基 本 計 画

令和５年６月

発　行　　竹 富 町 教 育 委 員 会

〒907-8503　沖縄県石垣市美崎町１１番地１

TEL:0980-87-6256　FAX:0980-82-0643